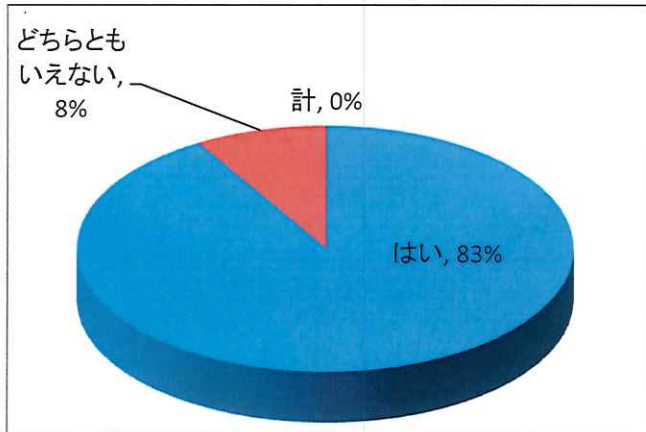


R7年度 ファミリーキッズ座間 保護者評価結果

6月実施

5月面談時に、アンケート実施。回収 25/27名 2名回答無し 93%

1. 環境・体制整備

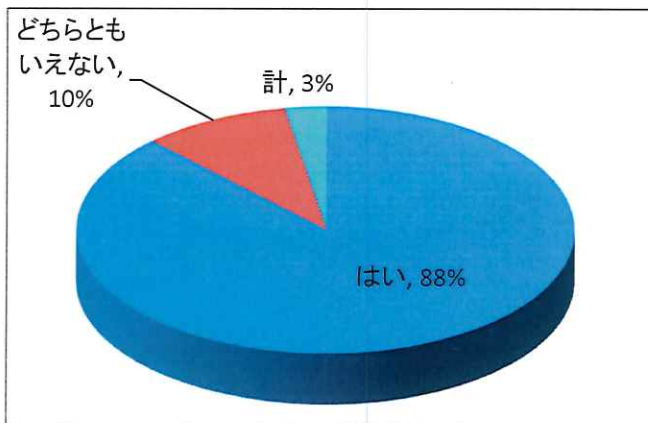


コメント:

縦長ワンフロアではありますが、ソフト野球、風船バレー、ボーリング、各種行事や感覚統合に向けたレクスポーツ等ができています。部屋はワンフロアで段差はありませんが、設間に手すりがあるためどちらとも言えないとの回答が数値になっています。

職員の専門性は障がい関連35年の専門家がいるため、親御さんお困りごとうや家族対応など即対応しているためご家族の方は安心されているようです。

2. 適切な支援の提供

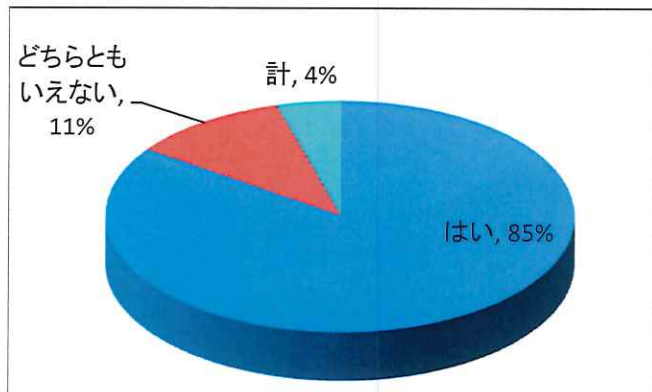


コメント:

常に活動はお子さんのアイデアや希望を中心に活動を専門的に組み立てているため、常に新鮮な取り組みとして評価を頂いています。特に外出や社会体験など多く行っているため、ご家族からは連れて行けない場所に多く連れて行って色々な体験をさせてもらっているの感謝しているという声が多く聞かれています。

児童館や児童クラブご利用の方がいないため現在は行っていない。

3. 保護者への説明等

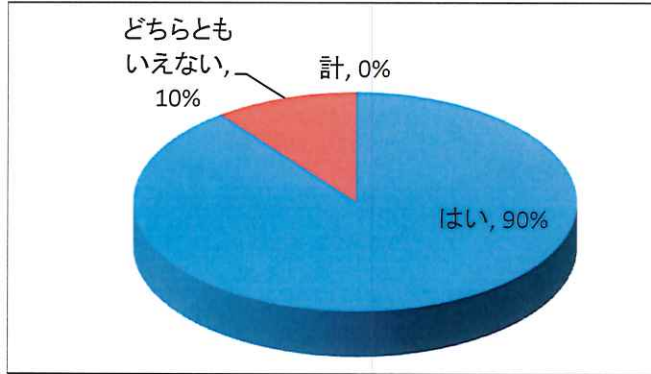


コメント:

ご家族は色々な意見や考えをまとめてもらい支援に反映してもらっているのご意見が多く寄せられました。

連絡帳や送迎時での情報交換や1時間掛けての面談等を通して色々な様子が分かりこのままで良いのご意見。またBBQやクリスマスなどご家族参加型の行事も多くそのため父母の会に対しては、現状でお子さんとの情報交換が出来ており、色々な相談にも乗ってもらえているので「どちらともいえない、いいえ」を選ばれています。

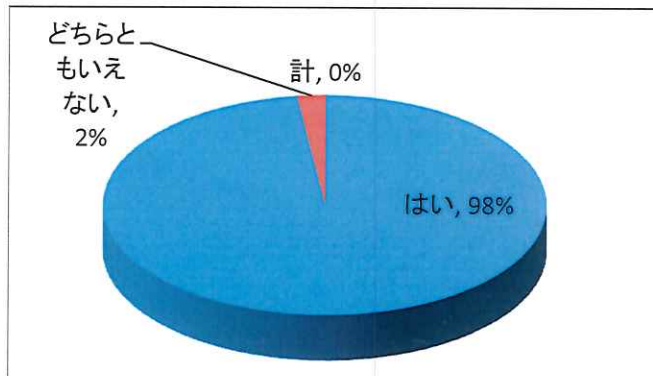
4. 非常時等への対応



コメント:

避難訓練は、半年に1回行いますが、災害予測の規模が大きくなり、いざと成ったら出来る事は限られてしまうため対応マニュアルの変更も必要となっています。大型地震や災害、台風など予測され家族も動けない状況となるため「どちらともいえない」の選択が見られていました。感染症やPCB、災害マニュアルなど、ご家族との連携の視点での作成が必要となる。ご家族も緊急時の対応に何処まで応じられるか、事業所との関わりも今後必要になっていくのではと話されている

5. 満足度



コメント

室内活動において、お子さんが自ら準備されたり、落ち着きが見られたりや変化が見られており満足を選択された方が多くおられます。特に、キッズの特徴である集団生活(小学生から高校生、知的・身体障がい)を通して対人関係が変化し、お友だちと遊べるようになった、お手伝い出来るようになった、切り替え出来るようになったという声が数値になって表れてきています。

併せて、ご家族が利用しやすい利用日の自由設定や変更の随時対応などで助かるという声も多く聞かれています。また経済的負担に配慮したポイント制にも評価をいただいています。

面談や日々の送迎から寄せられたご意見

- ・学校と違い色々な年齢層のお友だちと過ごせるのがいい
- ・帰宅時満足そうな表情が見られている
- ・生活ルールが身につく、待つことや順番を守る、挨拶やお礼などが出来るようになった
- ・好き嫌いが減り、食も広がり、食事を楽しめるようになって驚いている
- ・コドモンに丁寧に様子が掛けられており、親の相談にも丁寧に答えてくれる
- ・子どもが友だちとの遊びが出来るようになった
- ・宿題などを見てもらい、徐々に取り組めるようになった
- ・日時の変更や急な変更にも対応してもらえるので、助かっている
- ・おやつ無料やポイント制で1食分のお弁当等でも経済負担が軽減でき嬉しい
- ・専門的なアドバイスや助言がもらえて助かっている
- ・外出やお出かけ計画がもう少し早く教えてもらいたい

頂いたご意見への対応（改善）

- ・ご希望表が集まるのに時間が掛かっている事とバランスよく参加を見ていくため定期的に遅くなってしまっている。改善が難しいところである。

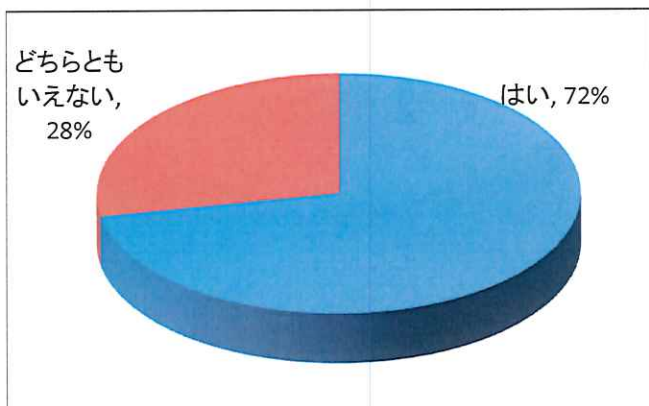
R7年6月 ファミリーキッズ座間 事業所における自己評価結果

回収率7/7 6月実施

ファミリーキッズ座間では、職員ハンドブックを基本にしながら、障がい特性に配慮した支援を行い、社会的迷惑行動に気づきお友だちと楽しく遊べるように支援を行っています。

将来地域社会で「自分らしく楽しく生活できるように」興味関心を広げ意思決定の幅が広がるように支援しています。また社会生活を送る上で、食の豊かさも重要なため、色々なおやつを提供から食を広めています。これらの基本方針が職員に理解されていることから高い結果となっていると思われます。

1. 環境・体制整備

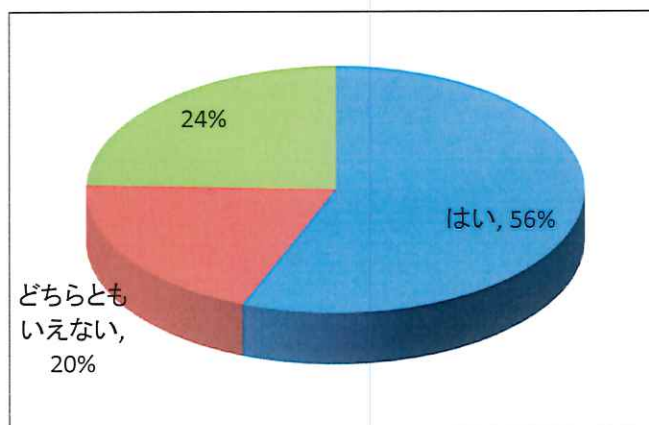


コメント:

生活空間スペースは、風船バレー、ソフト野球、障害物リレー、感覚統合のレクスポーツや、小集団グループで遊ぶスペースがあり、同時に宿題や工作活動も行えるため特に問題はあります。

また職員を2対1で配置していますが、外出等においてはきめ細かな支援が出来る様に10:6で職員を配置し、更にボランティアを加え実施しています。色々なサポートも必要とされるため、必要に応じてボランティアの活用などを積極的に行っています。お子さんに添える対応により社会的興味や社会的視野を広げる支援が可能となり、ご家族や関係機関からの高い評価につながっています。

2. 業務改善



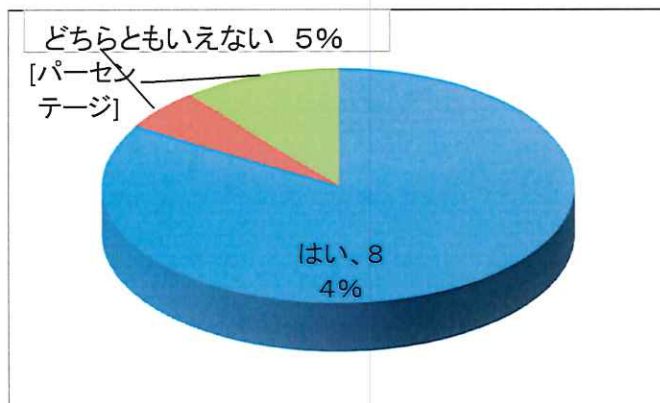
コメント:

第三者の評価は現在行っていませんのでどちらともいえないになっています。ハンドブックによる内部研修を基本に、必要とされる対外研修、本店主催の職員スキルアップ研修などに参加、個人申請で必要な研修にも参加出来る様に対応しています。ご家族との情報交換は、日々の送迎やコドモンを通して小まめにやり取りが行えるように努力しています。また面談を通して課題や困りごとなどへの対応も常時行えるようにしています。保護者評価や事業所評価もネットで配信しています。

改善工夫

お家族からのご意見等は、即日全員で検討できるように対応出来るよう職員意識を高めています。

3. 適切な支援の提供



コメント:

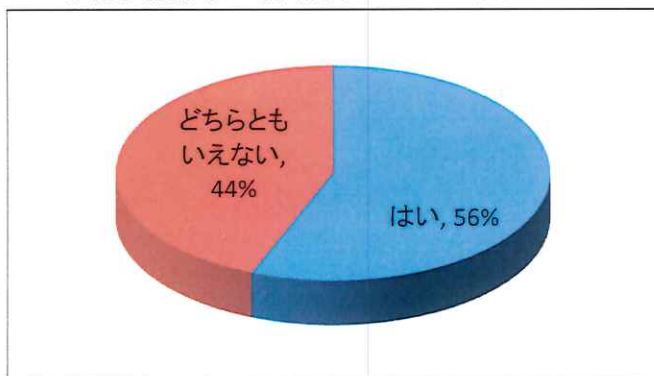
アセスメントや個別支援経過、モニタリングなど職員が自由に活用出来るように、個別関連のファイルは別途に整理し見やすく保管しています。支援計画は「生きづらさを少なくし社会に出て自分らしく楽しく生活」出来る様に、課題を整理し作成しています。

活動プログラムについては、お友達と楽しく考え工夫しながら遊ぶ中で対人関係や社会性が伸ばせるように行っています。日々その時のメンバーで活動して行くため固定化はありません。

祝日対応では、遠出外出等通して社会体験が出来るように企画実施しています。

改善工夫: 支援終了後の話し合いや、外出計画など細かな打ち合わせを時間を調整しながら行なっています。

4. 関係機関や保護者との連携



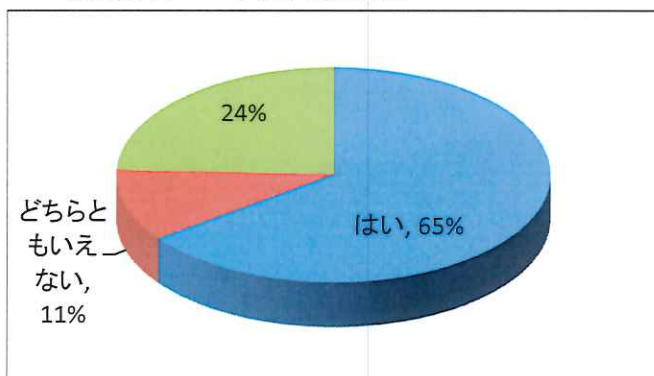
コメント:

お子さんの進路等については、ご本人の障がい特性をとらえ、様々な社会資源をご紹介しながら具体的に相談に応じています。特に身体機能障がいや医療的ケア、発作や、過緊張、湾曲や下肢捻転、嚥下困難等へは、様々なアドバイスを行っています。

児童クラブや学校等関連機関との情報交換や話し合いなどは必要に応じて行っています。

改善工夫: コドモン導入により、ご家族からの情報が得やすくなった半面、活動状況との入力を送迎後になるため時間外にはみ出すことが多く、送迎を分散して余裕をもって自宅送りが出来るように改善工夫を行なっています。

5. 保護者への説明責任



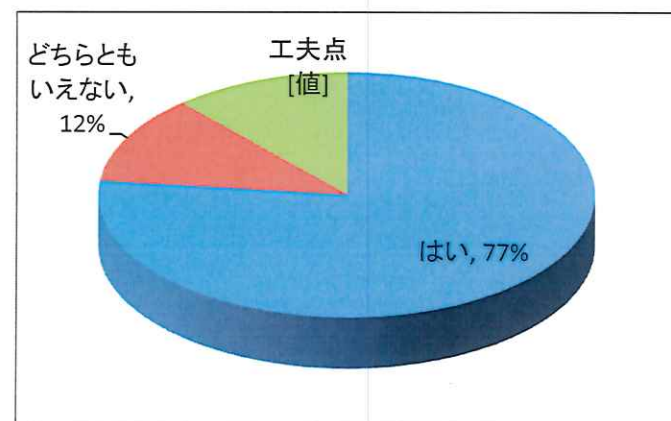
コメント:

父母の会については、特に要望が無く日々のコドモンや電話でのやり取り、面談などでの情報交換で十分のご意向が示されています。行事等でボランティアの参加やご家族参加など呼び掛けの中でそれなりに地域交流が図られています。

行動障がい、ご家庭で暴れたりされるお子さんについては、ご家族と密に連絡を取りながら相談助言を行っています。必要に応じて地域連携での検討会も行っています。

改善工夫: 広報が行事や誕生会などイベント単位なので定期的に広報が発行できるように取り組んでいます。

6. 非常時等への対応



コメント:

1Fのため、災害時の避難や誘導もしやすく、ご家族からの安心感に結びついています。

昼食を購入して食べる場合のアレルギーなどへの配慮や、幅広いメニューを選び食されるように購入先も数か所利用しています。

マニュアルについては、災害や事故も規模が大きくなってきているため見直しを図りながら活用できるように作成しています。災害・避難訓練も定期的に行ないご利用されているお子さんが戸惑う事がないように対応しています。

改善工夫: パート職員を含めた避難災害誘導並びに送迎中の対応など課題が多くマニュアルと共に見直しを行なっています。

・評価と改善点

1. 食の広がり

食生活を豊かに広げるため、色々なおやつを導入しながら食の楽しみの体験を提供することにより、食の広がりにつながり、お弁当の選択も出来る様になって来ています。(おやつ無料)

2. ご利用し易さ

色々な形で成り立っているご家族に寄り添いながら、ご利用しやすい日にちや、変更に対応しています。

済的にも優しいポイント制なども取り入れ、ご家族を側面的に支援しています。

・改善点(目標)

1. 災害対策

中重度お子さんの誘導や、安全対応など限られた職員での災害時の誘導等の工夫が望まれます。

2. 緊急マニュアルの改訂

社会情勢並びに大型災害、家族体系等考慮しながら、対応できるように改訂を進めています。